

成果指標				
成果指標	独居高齢者に対する設置割合(設置件数/独居高齢者推計数(%))			
指標設定の考え方	設置が必要であると判断される独居高齢者の把握に努め、効果的に支援体制を確保するため、緊急通報装置の設置割合を高める。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	0.25	0.26	0.26	0
実績	0.287	0.268	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	5	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	見守りが必要な独居高齢者に対するサービスとして、月2回のお元気コールや、緊急時の通報手段として有効活用されている。ただ、認知症高齢者による活用は困難となる場面もあり、見守り手段の多様化も検討する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	5	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	見守りが必要な独居高齢者に対する緊急時の通報手段としては、有効な方法であり、今後も継続して行う必要がある。前年度より設置率が下がっており、民生委員や高齢者家庭相談員等を通じて、制度の周知、普及を図る必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業 (二次評価者コメント) 必要な事業であるが設置率が低下しており、この際、事業効果を検証するため、行政評価委員会に諮る

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none">・緊急通報体制装置の設置割合が高い低いという話ではない。設置して役に立ったかどうか取り上げる方が意味がある。・最後のセーフティーネットなので、是非続けていただきたい。・高齢者福祉サービスが手厚いというより、重複している部分がある。全部不必要とは言わないが考え直した方がよい。
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	